# 海外研修見聞録

中山　大介
Daisuke Nakayama

NHO　旭川医療センター　放射線科

この研修は非常に印象深いものでした。

まず、海外経験の少ない私が一週間の病院見学をする準備からしてすでに学ぶことが多かったです。半年前から英会話を習い、研修まで１か月をきった頃からは英語履歴書や健康診断書などの事前書類の準備がありました。書類を書くのはもちろん、読むことすらままならないような状況でしたが、他の研修予定者と力を合わせて必死に準備しました。

そして現地についてからも慣れない海外アパートでの一人暮らしに不安がつのり、見学が始まっても語学力に苦しみと、とても精神的な負荷が多い研修でした。研修初日の朝方には運悪くM4.4の地震に見舞われ、一人アパートで挙動不審になっていました。

しかし日が経つにつれて、日本とは異なるシステムや仕事に対する意識、VAのスタッフの丁寧な説明や優しさを感じ取ることができました。

始めは英語を聞き取ることに必死になっていましたが、何度も挨拶を交わし、仕事に関する話題やジョークなどを話しているうちに相手の表情やしぐさにも目がいくようになり、３日目くらいからは気分的にも楽に会話ができるようになっていたのを覚えています。私の拙い英語力に笑顔で付き合って頂いたVAのスタッフの懐の広さを感じました。

研修中にImaging、Isotope、Oncology、Radiation Safety、Imaging Informationなどの部門を見せて頂きました。日本では「放射線科」とまとまっている分野ですが、完全に別部門として活動していることや、配置されている人数の多さに驚きました。

検査に関しては手技や内容はほぼ同じだったのですが、被曝管理や衛生面への気遣いは日本よりはるかに上でした。体格が違うことから、異なることを予想していた撮影装置や造影剤の規格などが日本と同じだったことにも驚きました。

目上のチーフや患者との会話も敬語の文化がない英会話ではとてもフレンドリーに聞こえましたし、またその量の多さに驚きました。日本人感覚の私にとっては「こんなに話してばかりで仕事は遅れないのかな？」と不安になるほどでした。

また研修後の観光や生活の中からもアメリカの文化を実際に体験することができました。もっと見たい、もっと聞きたいと、欲が出てきて、もっと研修時間を有効に使うための準備をしておけば良かったと後悔したくらいです。

初日からは想像できないくらい、研修最終日には名残惜しい気持ちでいっぱいでした。

日本では体感できない検査の雰囲気や、向こうのスタッフの考え方などを学ぶことができたのはもちろんですが、それ以外にも心境の変化がありました。海外

中山　大介　　独立行政法人国立病院機構旭川医療センター　放射線部
〒070-8644 北海道旭川市花咲町７丁目4048番地
Phone: 0166-51-3161, Fax: 0166-53-9184　　E mail: d-nakayama@asahikawa. hosp. go.jp

の検査内容や装置などは日本にいても調べられることは沢山ありますが、関わったことの無いものを調べるのと、実際に見聞きし体験したものを調べるのでは興味の持ち方が雲泥の差だと思います。そういう意味では、私自身の『伸びしろ』を変化させてくれる、とても貴重な研修になったと思います。

このような体験をできたことを心から感謝しております。